

～8・23のプレ・ゼミの成功を～
11・13～15の全国ゼミ「佐原・成田大会」
～実りある成果をあげよう～

全国町並みゼミ「佐原・成田大会」は全国各地から大勢の参加者が集まり十一月十三日から二泊三日で開かれます。これに先立ち、本番の予行の性格をもつプレゼミを八月二十三日(日)に佐原を会場にして開催します。

今回は町並み保存を手がける関東地方の集まりの場としてプロロク的な意味をもつて企画しました。

川越・栃木・真壁・桐生の他に、単体での保存で町づくりを行なっている東京の「た」という歴史都市研究会、成田の門前町が加わり佐原を含め七団体をパネラーとして迎えます。

全国町並みゼミ「佐原・成田大会」プレゼミナール
開催日時 平成21年8月23日(日)
会場 佐原市交流館
主催 佐原市交流館
協賛 佐原市、佐原町、佐原町並み保存会、佐原町並み保存協議会、佐原町並み保存会連合会、佐原町並み保存会連合会(株)、佐原町並み保存会連合会(有)、佐原町並み保存会連合会(協)、佐原町並み保存会連合会(組)、佐原町並み保存会連合会(会)、佐原町並み保存会連合会(社)、佐原町並み保存会連合会(公)、佐原町並み保存会連合会(財)、佐原町並み保存会連合会(法)、佐原町並み保存会連合会(特)、佐原町並み保存会連合会(理)、佐原町並み保存会連合会(業)、佐原町並み保存会連合会(商)、佐原町並み保存会連合会(学)、佐原町並み保存会連合会(研)、佐原町並み保存会連合会(発)、佐原町並み保存会連合会(刊)、佐原町並み保存会連合会(行)、佐原町並み保存会連合会(信)、佐原町並み保存会連合会(通)、佐原町並み保存会連合会(輸)、佐原町並み保存会連合会(送)、佐原町並み保存会連合会(配)、佐原町並み保存会連合会(送)、佐原町並み保存会連合会(配)、佐原町並み保存会連合会(送)、佐原町並み保存会連合会(配)、佐原町並み保存会連合会(送)、佐原町並み保存会連合会(配)...

わかば部門で最優秀賞
おかみさん会が
「商店街ルネッサンス・コンテスト」で佐原おかみさん会が、「わかば」部門で「最優秀賞」を受賞しました。



表彰式壇上のおかみさん会の皆さん

このコンテストは、昨年十月から十二月にかけて信用金庫業界が全国の商店街応援キャンペーンの一環として各信用金庫から推薦された活動を対象にして実施されたものです。佐原おかみさん会の「まちぐるみ博物館」をはじめとする多年にわたるきめ細かい活動...

佐原の町並み
かわら版
第44号
平成21年8月
発行 NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会
佐原町並み保存会
お問い合わせ 佐原町並み交流館
☎ 0478(52)1000

定期総会終わる

NPO「小野川と佐原の町並みを考える会」の第五期の定期総会がさる5月12日(火)午後5時より、佐原町並み交流館「多目的室」で開催され、事業・決算報告、事業計画、予算の承認、2名の新理事の承認等スムーズに進行されました。

本年度は、8月23日(日)の「プレゼミ」に続き、いよいよ11月13日から三日間、第32回全国町並みゼミ「佐原・成田大会」が行なわれます。準備も着々と進行中ですが、会員各位および市民の皆様のご協力が不可欠です。

今年度、交流館の休館日は月一回、第2月曜日が原則ですが不定期ですので、詳しくはお問い合わせを。



読売新聞より平成百景認定書授与

平成百景に認定される
読売新聞創刊百三十五周年を記念して行なわれた平成百景認定事業に「佐原」が選ばれ、四月十六日紙上で発表されました。

小野川護岸周辺の清掃を
春と夏祭り直前の二回実施
恒例の初夏の小野川護岸の清掃作業が六月三日(水)朝九時より雑草刈り・ゴミ拾いを中心に、また本宿夏祭りを前に七月七日(火)護岸壁の雑草の除去に舟二艘を出し、市の協力をえて実施されました。

千葉県建築文化賞が「考える会」へ
千葉県と千葉県建築士会が平成六年から千葉県内の優れた建築物を表彰してきました。平成二十年からは規約が改正されて、建築物群保存に対する活動団体も表彰対象に加えられることになりました。

町並み交流館の入館者数
今年四月～六月の入館者数は四二、九三六名。あやめ祭期間は例年に比べ少なかったようですが、七月第二週末の本宿祭礼時の土曜一日で九千五百六十名に達しました。

佐原光景写真展
交流館一階ホールで六月十六日～八月二日まで開かれていた「佐原光景写真展」は、フォトサークル・四季彩(佐原)とフォトサークル・ライト(習志野)と三軌会千葉・九州支部の作品も展示され、九州の伝統芸能や自然を鑑賞することが出来ました。

本宿祭礼に先立つ一ヶ月間、三菱館を会場に橋本健司さんによる「佐原の大祭全山車水彩画展」が開催されました。「NPOまちおこし」佐原の大祭振興協会と「NPO小野川と佐原の町並み」が主催。

橋本さんへ感謝状贈呈
「考える会」では、佐原の魅力を伝えていただけた橋本さんの功績を評価し七月二十六日に感謝状を贈呈いたしました。橋本さんは昭和三七七年佐原市生まれ。障害を克服し水彩画にその才能を発揮、精力的に展示会を開催しています。



町並みを歩いて

(その二)

重伝建地区の隠れた魅力を発掘

佐原で最も知られている寺院といえば、伊能忠敬の墓所のある観福寺ですが、今回は重伝建地区の近く、佐原小学校に沿って浄国寺まで歩いてみましょう。

佐原村地頭旗本・三千石

津田日向守の墓所

佐原地頭旗本・津田日向守の墓所は、浄国寺の正門を入りまっすぐ、針塚に對面する位置にあります。

墓所によると、元々浅草の長徳院にあった津田家の廟所が東京大震災で焼失しましたので、津田家の家老職・当主中安進氏と佐原町小川欽一郎氏が協力し改装したにもかかわらず、第二次大戦の戦災でまた焼損してしまいました。その後、津田家の消息も途絶えてしまいましたので、平成十五年に長徳院の墓域整備を機会に、中安家および小川家が相談の上、津田家ゆかりの地・佐原に墓所を移転しました。

佐原村は徳川時代、慶長十

充実した二日間

先日は私達十一名のご案内をいただきました。詳しい説明つきで、一日中見学させていただきました。本当に良い旅行でした。特に、観福寺は、案内なしでは誰のお墓かわからなかったと思います。あくる日は、香取神宮を見学しました。充実した二日間でした。

(東京都清瀬市)

人々の心意気を感じた

ボランティアの方々には細かく説明していただき、前回うかがった時とは違ったコース

三年(一六〇八)には幕府領小給所として四人の旗本による分割支配、元文五年(一七四〇)に天領(代官所木下・大森)、安永七年(一七七八)に津田氏三千石の知行地となりました。

無心に続いて騒擾事件が起きて、佐原村が混乱しました。総代名主が願いで翌年元治元年(一八六四)に佐倉藩領となりました。

小林一茶

忠敬が佐原で活躍していた約二二二年間は、津田信之(寛政十二年・一八〇〇・没)が治めました。信之は將軍の身近に出られるほどの側衆という高位の旗本だったようです。信久四年間、信義五十年間、信利(明治二年没)と引き継がれて幕末をむかえます。文久三年(一八六三)佐原村は水戸藩天狗党の軍資金の

佐原には、古より幾多の文人・墨客が訪れています。その代表的な人物が今泉恒丸。蕪村に並ぶといわれた天明中興の五傑に挙げられている加舎白雄(かや・しらお)の弟子でした。奥州、三春の人で、四二才で家督をゆずり江戸へ出て一



(上) 津田家の墓 (下) 今泉恒丸の墓



おもてなし講座

7月3日(金)に佐原地区の飲食店でつくる「地域の食を考える懇談会」が佐原商工会議所において「おもてなし講座」を開きました。

外食トレーニング・コンサルタントの水谷昭彦さんを講師に接客の方法を学びました。「食」という重要な部門を担う私たちの責任の重さを痛感した素晴らしい勉強会となりました。

のれん班々長・田中良一



町並み案内(その五) 佐原っ子の気概をもって

町並み案内班々長・越川悦子さん

佐原の中心を流れる小野川の下流域、下川岸に祖父の代まで舟運にかかわって来た家柄に生まれ、雄大な利根川が好き、小野川と佐原の匂いが染み付いた越川さんです。

佐原に優る所はないと常に思い、中学校教師、小学校管理職時代を通じて子供たちに郷土の魅力語り続けてきました。平成六年退職、小野川の絵を描き作品展に出品したのがきっかけで、「考える会」へ加入しました。



「観光客の方々に「良かった、また来るよ」と言ってもらえるのが一番の喜びであり、町の人も佐原の良さを再確認し誇りにしてもらいたいです。説明とさせていただきます。かつて訪れたドイツ中世の「橋」の町「ローデンプルグ」、近代化されて

総にも及び、俳人としての活動は盛んだったといわれます。文化七年(一八一〇)九月六〇才で死去。その十月十五日に一茶は延寿院(現在の萌陽高校の駐車場から裁判所のあたり)の恒丸の墓をお参りしています。明治になり、恒丸の墓は浄国寺域に移されました(津田氏の墓所の左方)。句碑には、

三菱館がボランティアの拠点で、館内に観光客は勿論、地元の人々にも魅力ある佐原を知っていただくために絵画展をしました。当時吉田昌司さんの町並み紹介のボランティア講座が開かれ、何気ない建造物にも歴史が詰まっていることを教えていただいたことが現在の「町並み案内の基本」になっているとのこと。

越川さんは、「町並み案内班」の班長として月一回の会議、案内当番制の実施、地元の人々との「佐原を楽しむ会」(年八回)を計画し、現在準備中です。

観光案内に感謝の礼状

佐原の奥深さ

ボランティアの方々の熱心な案内には感心いたしました。そして佐原の町の奥深さをつくづく感じる事ができました。感銘する所の多い佐原訪

を歩きましたので、珍しい発見もあり、先人の偉大さ、日本建築の良さ、町の人たちの心意気も感じました。

(栄町龍角寺台)

(その5)

総合学習でお世話に 伊能忠敬や町の説明を聞いてい、また生徒からの質問

に適切に答えていただきありがとうございました。学校に帰っても生徒たちは「総合学習の時間」に伊能忠敬についてよくまとめていました。(君津市八重原小・六年担任)

もう一度訪ねたい (以下、「落書き帳」より) ◇川岸の柳とアヤメがすてきな町でした。もう一回お訪ねしたい。

(石岡市・七五才の女性) ◇函館より姉に会いに来ました。タイミング良くアヤメ祭り、ライッキでした。◇佐原は二度目です。雨でしたが、かえって忘れられない日となるでしょう。初めての時より色々見て回りました。祭りを続けられるエネルギーには驚きます。

さわら・町並み・夕涼み 灯りが織りなす夜彩彩 8月15日(土) 午後6時30分～9時

平成二十年後半から、いま二十一年半ばは大不況。安定した雇用・生活保障のないまま数年が過ぎていくだろう。百年に一度という大不況も十年もすると忘れられるのか。(広報班・新井)

